

## 1 4. 畜産経営が変わる！技術と資金繰りの改善ポイント

豊肥振興局

宮木隆裕・衛藤剛生・森本剣介・渡邊綾女・平木亜里紗・○小野磨袋斗

### 【背景と目的】

近年、コロナ禍以降の景気低迷や不安定な国際情勢を背景とした円安の進行により、輸入飼料価格が高止まりしている。さらに、燃料費や肥料代等の原材料費も高騰し、畜産経営を取り巻く経営環境は著しく悪化している。これらの影響を受け、子牛市場価格は低迷傾向にあり、全国的に肉用牛経営の収益性は低下している。

県内最大の肉用牛産地である豊肥地区においても同様に経営環境の悪化は進んでおり、資金繰りに苦慮する経営体が少なくない。このような厳しい情勢下においては、限られた経営資源を有効活用し、生産性の向上と経営基盤の強化を図ることが重要である。

そこで、豊肥管内の肉用牛繁殖経営体を対象に、繁殖成績および子牛市場出荷成績の改善による生産性向上を図るとともに、資金繰り改善に向けた経営管理指導を実施した。

### 【取組内容】

#### 1 繁殖成績の改善

現状分析として、JAで管理している母牛台帳、生産者が活用している繁殖管理アプリ及び聞き取り調査により、発情発見率や受胎率、妊娠率等繁殖成績の分析を行った。

その結果、長期不受胎牛の滞在と妊娠率の低さが確認されたため、以下に取り組むよう指導した。

##### (ア) 長期不受胎牛の対策

分娩間隔が400～450日を超える長期不受胎牛が散見されたため、空胎期間、年齢や育種価等を踏まえた優先順位を設定し、更新対象牛を明確化した。

##### (イ) 妊娠率の向上

低妊娠率の要因として、発情発見率および受胎率に区分して整理した。まず、発情発見率向上のため、牛の腰角と尾根の間に貼付する発情発見資材の活用を推進するとともに、繁殖管理シートを用いて発情回帰に注意すべき牛を抽出し、重点的な観察を指導した。また、受胎率は、飼料計算に基づきタンパク質の補給等を行い、母牛の栄養状態改善により向上を図った。

#### 2 子牛市場出荷成績の改善

豊後豊肥家畜子牛市場のデータを分析したところ、出荷日齢体重（DG）が小さい子牛は市場平均より価格が低く、DGが大きい子牛は市場平均より価格が高い傾向があると確認された。

そこで、特に「DGが小さく、かつ価格が低い生産者」の改善が急務と判断し、以下を指導した。

##### (ア) 衛生環境の強化

子牛の疾病予防を目的として、初乳の確実な摂取、牛床の清掃・消毒の徹底により感染リスクの低減を図った。特に下痢等の発生防止に重点を置き、こまめな指導を行った。

##### (イ) 飼料給与内容の改善

子牛マニュアルに基づき、スターターの適切な給与および粗飼料の先行給与を指導した。子牛の発育段階に応じた飼槽の高さの調整や飼槽の清潔保持を徹底し、採食量

の向上を図るよう指導した。

### 3 資金繰りおよび経営改善

現状分析として、過去3年分の税務申告書のとりまとめ、その他の必要な情報は聞き取ることで経営分析を実施した。その結果、以下の課題が明らかとなった。

- ・子牛市場価格低迷による所得減少
- ・複数の償還金の重複によるキャッシュフローの悪化
- ・教育費等生活費の確保
- ・経営管理能力の不足

これらの課題に対応すべく、以下の指導を実施した。

#### (ア) 所得の向上

繁殖成績および子牛市場出荷成績の改善による収入の向上および経費削減を図った。

#### (イ) 財務バランスの改善

償還計画を基に金融機関と協議のうえ、中間据え置き等の活用や新規借り入れ等により運転資金を確保し、当面のキャッシュフローの改善、長期的な財務バランスの改善を図った。

#### (ウ) 生活費への対応

経営状況共有を目的とした家族会議の開催をすすめ、家計面からも改善を促した。

#### (エ) 経営管理能力の向上

生産者の経営管理能力を身につけるため、振興局において研修会を実施し、生産者自身が経営状況を把握できるよう指導した。

### 【成果】

繁殖成績、子牛市場出荷成績および資金繰りに課題のあった生産者に対して改善に取り組んだ結果、改善傾向が顕著であったものを紹介する。

繁殖成績については、繁殖管理が不十分なことにより、長期不受胎牛の実態が把握されていないことや、母牛の栄養状態が受胎率に影響していることが大きな課題であったため、繁殖管理シートを活用し未受胎牛の抽出・リスト化を行い、空胎期間や年齢構成等を整理し更新を実施するとともに、飼料計算に基づいたタンパク質の補給等を行うなど栄養改善に取り組んだ。その結果、受胎率は取組前の26%から48%へと22ポイント向上し、さらに、妊娠率も12%から18%へ上昇したことで、空胎期間が短縮し生産率が向上した(図1)。

子牛市場出荷成績については、DGおよび市場価格が平均を下回って推移していたため、衛生環境の強化と飼料給与内容の見直しに重点を置き、飼養環境の清潔保持や疾病予防の対策、発育段階に応じた栄養バランスの改善を図った結果、初期成育が安定し、DGは平均で0.5kg向上した。さらに、肋張りや体積といった体型の改善が見られ、市場価格は平均46千円上昇し、市場評価の向上につながった(図2)。

資金繰りについては、財務状況の整理を行い、収支バランスの見直しを実施した。あわせて、経営者本人の経営管理能力の向上を目的とした指導・助言を継続的に行い、経営数値の把握と計画的な資金管理の意識付けを図った結果、資金繰りは改善傾向にあり、経営の安定化に向けた基盤が整いつつある。

これらの取り組みにより、豊肥管内においては、繁殖成績および子牛市場出荷成績の向上に加え、資金繰りも改善傾向にあり、経営体全体として好転傾向が認められる。また、数値的成果が現れたことで、経営者本人の経営改善意欲も高まり、今後の持続的な経営改善に向けた前向きな姿勢が見られている。

### 【残された課題】

繁殖成績および子牛市場出荷成績については、暑熱対策の徹底や、飼料設計、飼養管

理、さらには血統構成などの多様な要因が複合的に影響していると考えられる。現状では、個別要因の分析整理は進んでいるものの、暑熱と受胎率や、血統と子牛市場出荷成績など各要素間の関連性や成績への影響については、十分な分析に至っていない。今後は、繁殖管理データや子牛成績データを活用し、要因分析を進めることで、課題の明確化と具体的な改善策の実施につなげていく必要がある。

資金繰りについても、繁殖成績や子牛市場出荷成績と密接に関係している。特に、子牛価格の変動や飼料価格の高騰といった外部要因に左右されやすい経営環境下においては、生産者自らが収支構造を把握し、計画的な資金管理を行うことが不可欠である。そのため、経営データ管理や経営分析等の支援を行い、生産者自身による主体的な経営管理の実践を推進していく。

さらに、今回の取り組みによって得られた成果や明らかとなった課題を個別経営にとどめず産地全体の底上げにつなげていくため、勉強会や研修会等の開催により成果の可視化と共有を実施し、他経営体の意識改革や行動変容を促す。

また、従来の労働力不足に加え、稲WC Sの作付面積の減少による自給粗飼料確保の問題も顕在化している。輸入飼料の高止まりが続くなかで、自給飼料生産基盤の強化は経営安定化の観点からも重要な課題である。今後は牧野や飼料畑における草地更新や施肥管理の適正化、収量向上技術の普及などを通じて、自給飼料の生産性向上を図るとともに、地域全体での飼料生産体制の維持・強化に向けた取り組みを進めていく。

【図表】

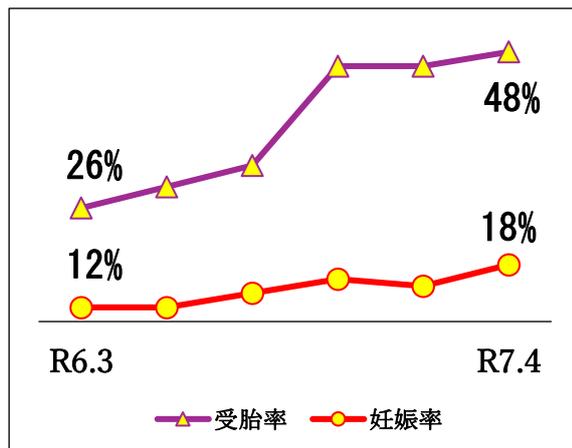


図1. 繁殖成績の推移

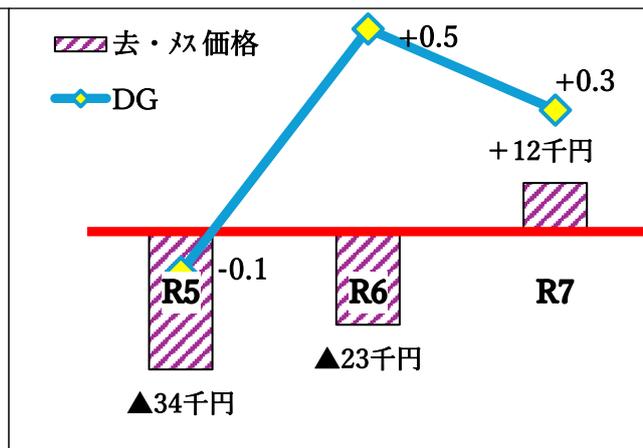


図2. 子牛市場出荷成績の推移